



Pack
1

Ferrari

250 GTO



Ferrari 250 GTO

組み立てガイド

-
- | | | |
|----------------|----------------------------|------|
| STAGE 1 | エンジンフードとステアリングホイール | P.1 |
| STAGE 2 | インストルメントパネルとドア・左 | P.5 |
| STAGE 3 | ダッシュボードとシフトレバー、運転席フロアプレート | P.9 |
| STAGE 4 | 助手席フロアプレート、クラッチボックスとギアボックス | P.13 |



エンジンフードと ステアリングホイール

伝説の名車、フェラーリ250GTOの8分の1スケールモデルカーは、エンジンフードとステアリングホイールから組み立て始める。フードに左右のエアスクープなどを組み合わせ、ステアリングホイールにステアリングコラムを接続しよう。



パーツリスト

1-1 エンジンフード

1-2 フードヒンジ・右

1-3 フードヒンジ・左

1-4 フードエアスクープ・左右

1-5 ステアリングホイール

1-6 ステアリングコラム

1-7 プラスドライバー (1番)

ネジ類

ネジA (M1.7×3mm) ×5 (1本は予備)

ネジC (M2.3×4mm) ×2 (1本は予備)

ヒント ●ネジは穴に対して真っ直ぐに当てて締め込む。斜めに締めると、途中で締められなくなる場合がある。●金属製パーツのネジを締める際、途中で硬くなったネジを緩め、削れて出たカスを取り除くと締めやすくなる。●ネジを締めにくい場合は、あらかじめ各パーツにネジを締めるかタップすることにより、ネジの溝を作っておくとよい。●ネジの先端に市販のミシンオイルなどを少量付けると締めやすくなるので試してみよう。●プラスチック製パーツにネジを締める場合は、締め過ぎるとパーツが割れたり、ネジの溝が崩れて締まらなくなる場合がある。パーツ同士がある程度固定されたら、締めるのをやめる。●パーツが外れやすい場合は、酢酸ビニル系が合成ゴム系の接着剤を使うとよい。瞬間接着剤は、乾燥すると周囲が白くなる(白化する)ことがあるので注意しよう。

STAGE 1



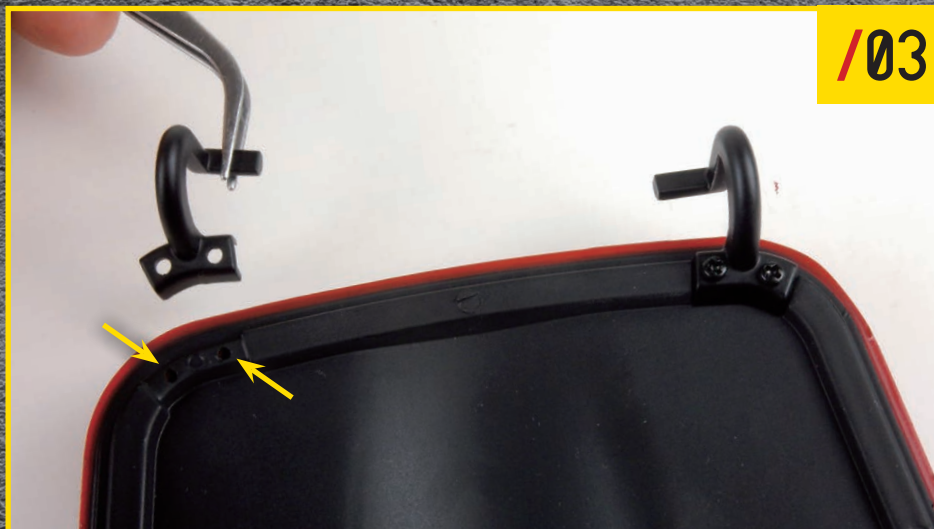
/01

1-1 (エンジンフード)の裏面、フロント側に1-2 (フードヒンジ・右)と1-3 (フードヒンジ・左)を設置する。写真を確認し、左右のヒンジを間違えないようにしましょう。



/02

1-1 (エンジンフード)の写真の位置に1-3 (フードヒンジ・左)を当て、2本のネジAを1-7 (プラスドライバー・1番)で締めて固定する。



/03

同様に、1-1 (エンジンフード)の反対側に1-2 (フードヒンジ・右)を当て、2本のネジAを締めて固定する。

/04



ネジがしっかりと締められ、左右のヒンジがぐらつくことなく取り付けられていることを確認する。



1-4(フードエアスクープ・左右)にはLとRの刻印がある。L(Left)が左側用、R(Right)が右側用。間違えないよう、まずは左側用のものだけを外す。継ぎ目(赤破線)に突起が残らないよう、カッターナイフやニッパーなどで切って外そう。

/05

左右を間違えないよう、まずは左側のものだけを外す。



/06

細かなパーツの組み立てにはピンセットがあると便利。ただし、傷付けないように注意しよう。



1-1(エンジンフード)のリア左側に、左側用のフードエアスクープを組み合わせる。フードエアスクープの裏面の3カ所の突起(A、B、C)をエンジンフードの対応する穴に合わせて当て、奥まで差し込もう。

裏返した状態(突起を上に向けた状態)。

/07



同様に、右側用のフードエアスクープを外し、1-1(エンジンフード)のリア右側に組み合わせる。

次に、ステアリングホイールを組み立てる。1-5(ステアリングホイール)と1-6(ステアリングコラム)を用意しよう。互いの端には、同じ形状のタブがある(矢印)。

/08

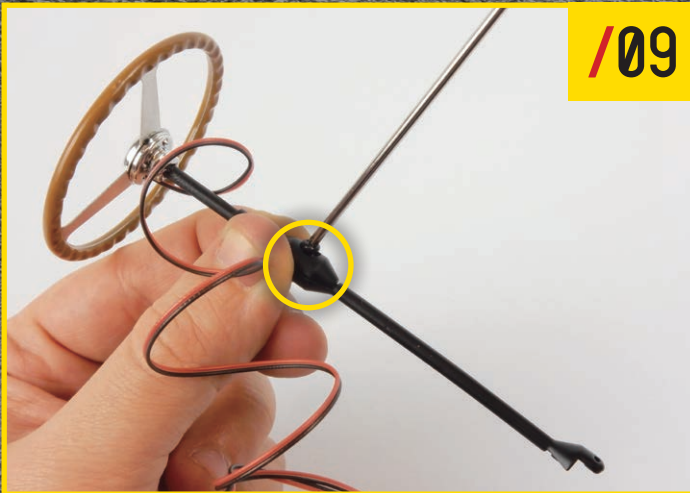
注意

ステアリングホイールの付け根は、破損しやすいので保管や組み立ての際には十分に注意。



組み立てや保管の際には、ケーブルを傷めないように注意。

/09



1-5(ステアリングホイール)と1-6(ステアリングコラム)の端のタブをかみ合わせ、穴にネジCを締めて固定する。



STAGE 1 の完成

これで第1号の組み立ては終了。フェラーリ250GTOの8分の1スケールモデルカーのエンジンフードとステアリングホイールが完成した。

インストルメントパネルと ドア・左

フェラーリ 250GTOのインストルメントパネルと運転席側のドアを組み立て始める。細かなパーツや透明なパーツは、紛失しないよう丁寧に扱おう。

2-1



2-6

フロント側



リア側

2-2

2-3



ネジB×3



2-4

2-5

2-7

2-8



ネジC×4



パーツリスト

2-1 インストルメントクラスター

2-5 インストルメントリング

ネジ類

2-2 インストルメントレンズ・大

2-6 ドア・左

ネジB (P2.3×5mm) ×3 (1本は予備)

2-3 インストルメントレンズ・小×5

2-7 インナードアフレーム・左

ネジC (M2.3×4mm) ×4 (1本は予備)

2-4 インストルメントパネル

2-8 ドアオープナー・左

ヒント ●ネジは穴に対して真っ直ぐに当てて締め込む。斜めに締めると、途中で締められなくなる場合がある。●金属製パーツのネジを締める際、途中で硬くなったならネジを緩め、削れて出たカスを取り除くと締めやすくなる。●ネジを締めにくい場合は、あらかじめ各パーツにネジを締めるかタップすることにより、ネジの溝を作っておくとよい。●ネジの先端に市販のミネラルオイルなどを少量付けると締めやすくなるので試してみよう。●プラスチック製パーツにネジを締める場合は、締め過ぎるとパーツが割れたり、ネジの溝が崩れて締まらなくなる場合がある。パーツ同士が一定程度固定されたら、締めるのをやめる。●パーツが外れやすい場合は、酢酸ビニル系が合成ゴム系の接着剤を使うとよい。瞬間接着剤は、乾燥すると周囲が白くなる(白化する)ことがあるので注意しよう。

STAGE 2

/01

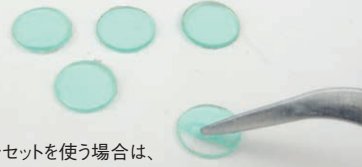
2-1 (インストルメントクラスター) の内側に、2-5 (インストルメントリング) を組み合わせる。穴の位置を合わせ、2-5をはめ込む。



/02

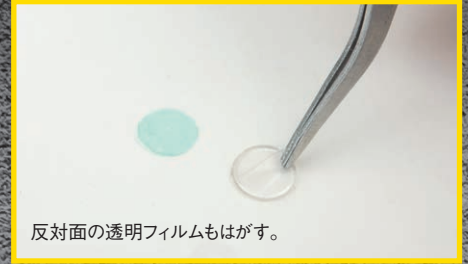
片面は色付きフィルム。はがしにくい場合は、セロハンテープなどに貼るとよい。

ピンセットを使う場合は、傷を付けないように十分に注意。



2-3 (インストルメントレンズ・小) の両面には、保護用のフィルムが貼られている (片面は色付き、反対面は透明フィルム)。フィルムをはがしてから組み立てよう。

反対面の透明フィルムもはがす。

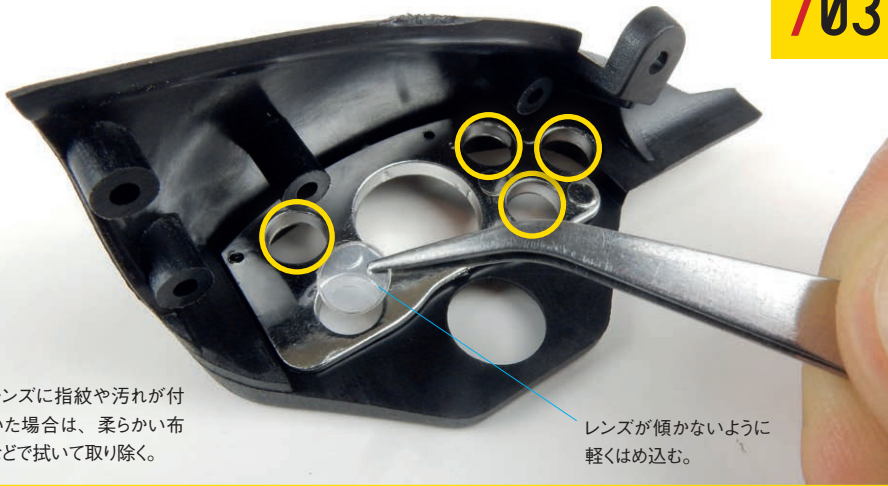


/03

01のブロックの2-5 (インストルメントリング) の小さな穴に1枚ずつ、2-3 (インストルメントレンズ・小) を軽くはめ込む。

レンズに指紋や汚れが付いた場合は、柔らかい布などで拭いて取り除く。

レンズが傾かないように軽くはめ込む。

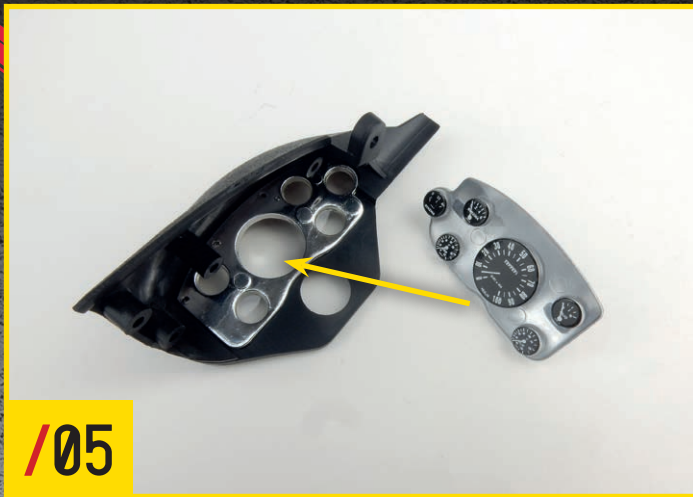


/04

2-3 (インストルメントレンズ・小) を奥まで (縁にぶつかるまで) 差し込む。強く押し込み過ぎると、反対側の面にはみ出すので注意しよう。

レンズに傷が付かないよう、竹串の柄などで押し込むとよい。レンズが傾かないよう、均等に押し込んでいくのがコツ。押し込みにくい場合は、2-5を外してレンズをセットするとよい。



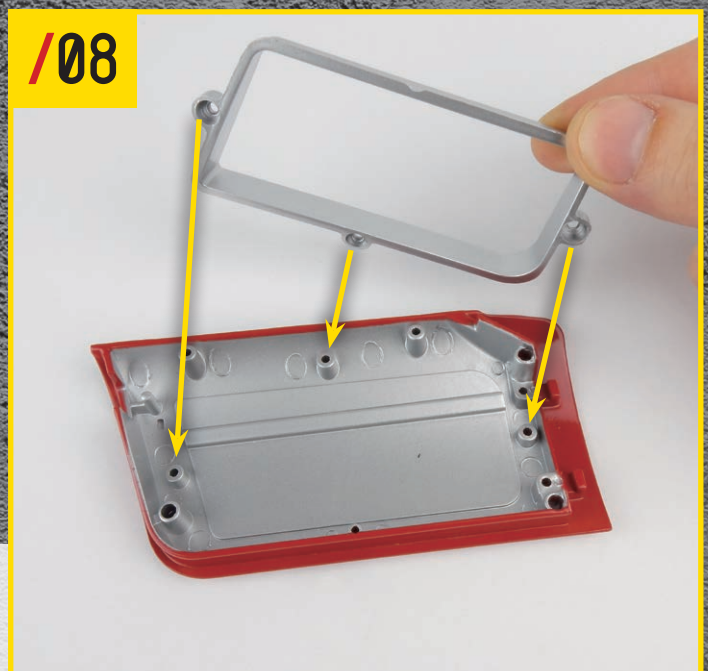


04のブロックに、2-4(インストルメントパネル)を組み合わせる。

2-4(インストルメントパネル)がずれないように押さえながら、写真の2カ所にネジBを締めて固定する。



02と同じ要領で2-2(インストルメントレンズ・大)の保護用のフィルムをはがし、インストルメントパネルの外側の面からはめ込む。



2-6(ドア・左)の内側の面に、2-7(インナードアフレーム・左)を組み合わせる。写真の3カ所のネジ穴を合わせよう。

/09



ヒント ネジ締めが硬い場合には、あらかじめネジCでネジの溝を作っておくとよい。※Φ2.3mmタップを推奨



写真の3カ所にネジCを締めて固定する。

2-6(ドア・左)の外側の面の穴に、
2-8(ドアオープナー・左)の突起を
差し込む。

/10



ここでは、ドアハンドルをフロント側に向けておく(実車では、ハンドルの向きが異なるものもある)。



STAGE 2 の完成

これで組み立ては終了。運転席側のドアとインストルメントパネルのブロックが出来上がった。第1号で組み立てたブロックを含め、傷が付いたりしないよう、大切に保管しておこう。

ダッシュボードとシフトレバー、 運転席フロアプレート

インストルメントパネルをダッシュボードに組み合わせる。また、ギアボックスにシフトレバーを取り付け、フロアパネルにシートレールなどを組み合わせる。



パーツリスト

3-1 ダッシュボード

3-2 ギアボックス・左

3-3 シフトレバー

3-4 フロアパネル・フロント

3-5 運転席フロアプレート

3-6 シートレール・A

3-7 シートレール・B

3-8 シートアジャストレバー

ネジ類

ネジB (P2.3×5mm) ×3 (1本は予備)

ネジC (M2.3×4mm) ×2 (1本は予備)

ヒント ●ネジは穴に対して真っ直ぐに当てて締め込む。斜めに締めると、途中で締められなくなる場合がある。●金属製パーツのネジを締める際、途中で硬くなったならネジを緩め、削れて出たカスを取り除くと締めやすくなる。●ネジを締めにくい場合は、あらかじめ各パーツにネジを締めるかタップすることにより、ネジの溝を作っておくとよい。●ネジの先端に市販のミシンオイルなどを少量付けると締めやすくなるので試してみよう。●プラスチック製パーツにネジを締める場合は、締め過ぎるとパーツが割れたり、ネジの溝が崩れて締まらなくなる場合がある。パーツ同士が程度固定されたら、締めるのをやめる。●パーツが外れやすい場合は、酢酸ビニル系が合成ゴム系の接着剤を使うとよい。瞬間接着剤は、乾燥すると周囲が白くなる(白化する)ことがあるので注意しよう。

STAGE 3

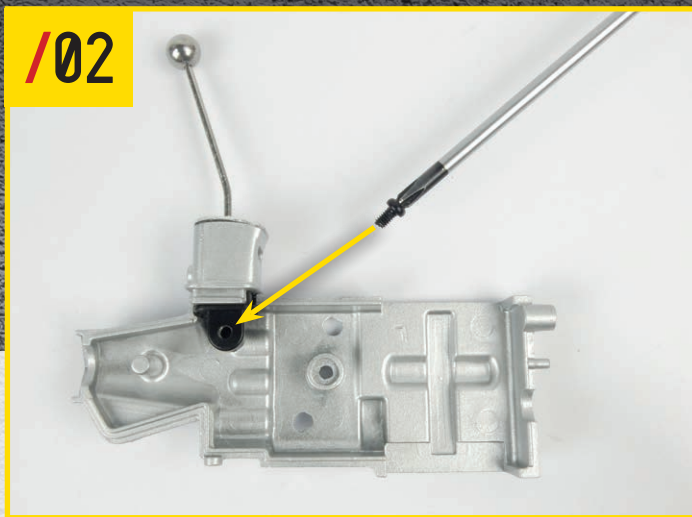
/01



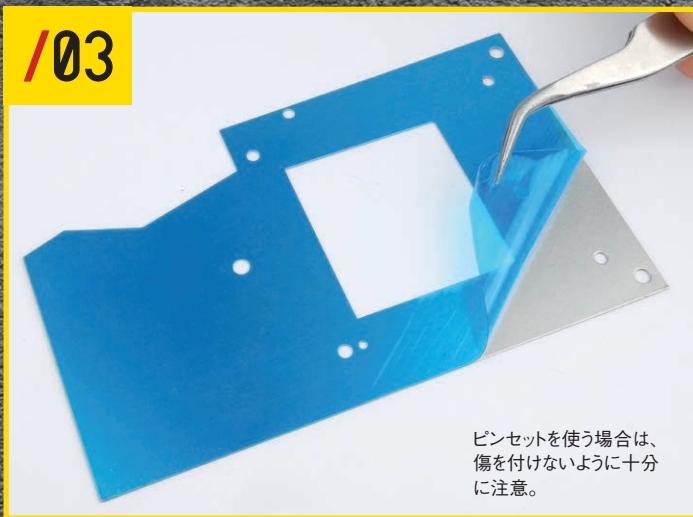
3-1 (ダッシュボード)に **STAGE 2** で組み立てたインストルメントパネルを写真のように当て、2カ所にネジBを締めて固定する。

次に、ギアボックスにシフトレバーを取り付ける。3-2 (ギアボックス・左)の内側に、写真のように3-3 (シフトレバー)を当て、ネジCを締めて固定しよう。

/02



/03

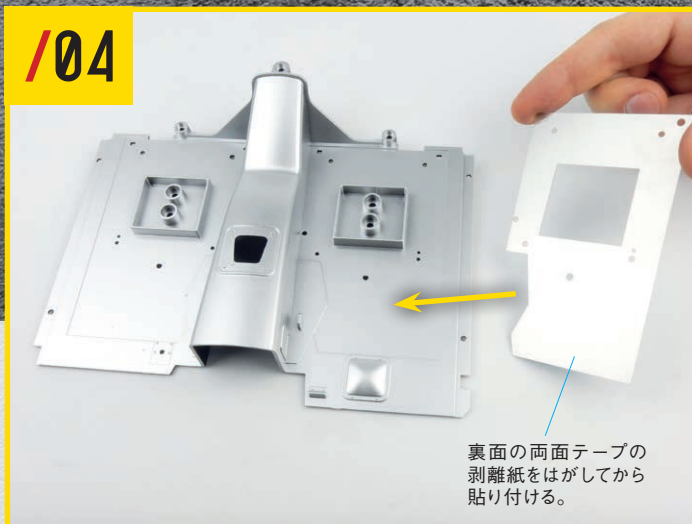


ピンセットを使う場合は、傷を付けないように十分に注意。

3-5 (運転席フロアプレート)の片面には、保護用のフィルムが貼られている。まず、このフィルムをはがす。

3-5 (運転席フロアプレート)の反対側の面の両面テープの剥離紙をはがしてから、3-4 (フロアパネル・フロント)に設置する。3-4のへこみに合わせて3-5を貼り付けよう。

/04



裏面の両面テープの剥離紙をはがしてから貼り付ける。



/05



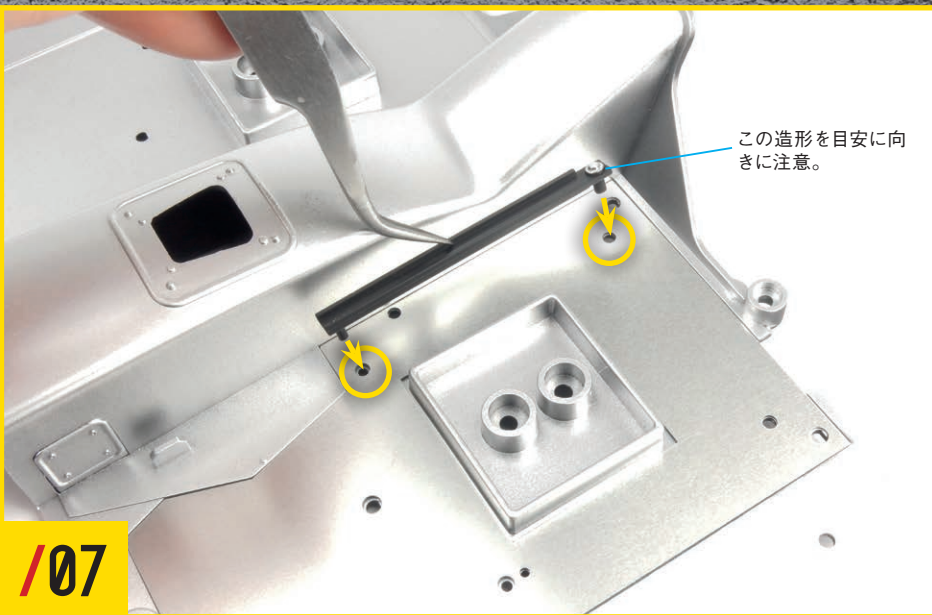
3-6(シートレール・A)と3-7(シートレール・B)は、間違えないように注意。穴がある方が3-7。



この突起がぶつかるまで差し込む。

/06

3-7(シートレール・B)の穴に、3-8(シートアジャストレバー)の突起を差し込む。



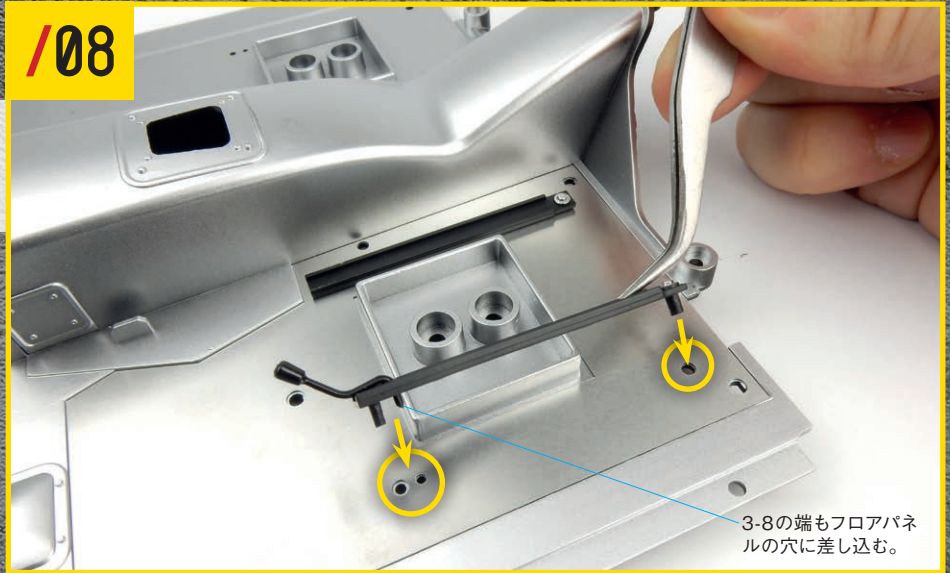
この造形を目安に向きに注意。

/07

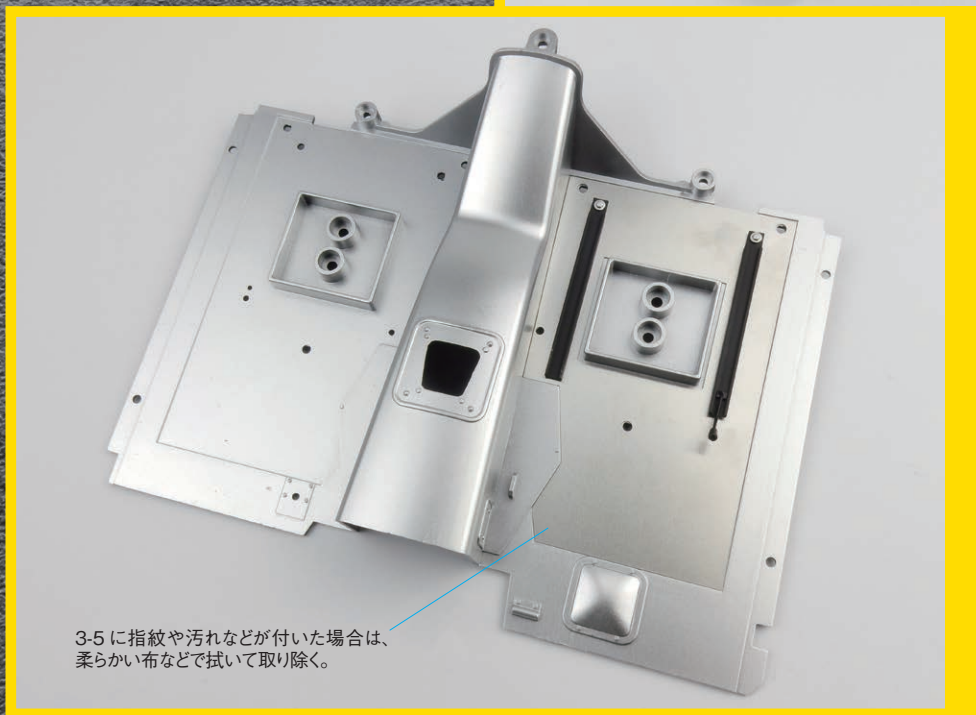
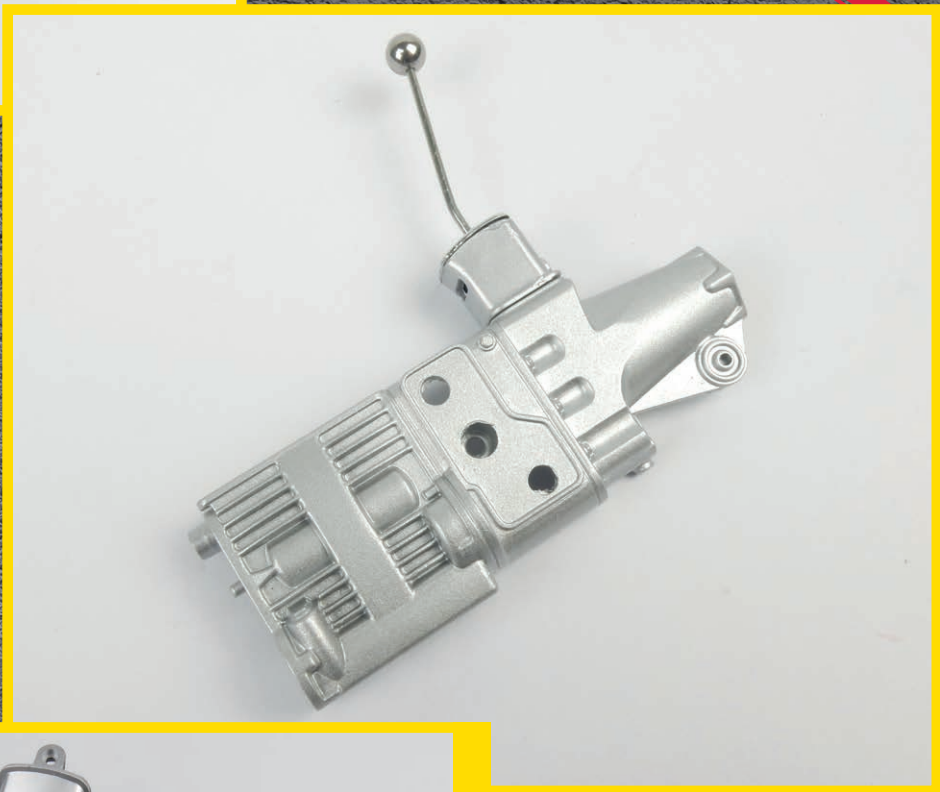
フロアパネルに3-6(シートレール・A)を設置する。3-6の突起を写真の位置の穴に差し込もう。

/08

同様に、3-7(シートレール・B)を設置する。各突起を写真の位置の穴に差し込もう。



3-8の端もフロアパネルの穴に差し込む。



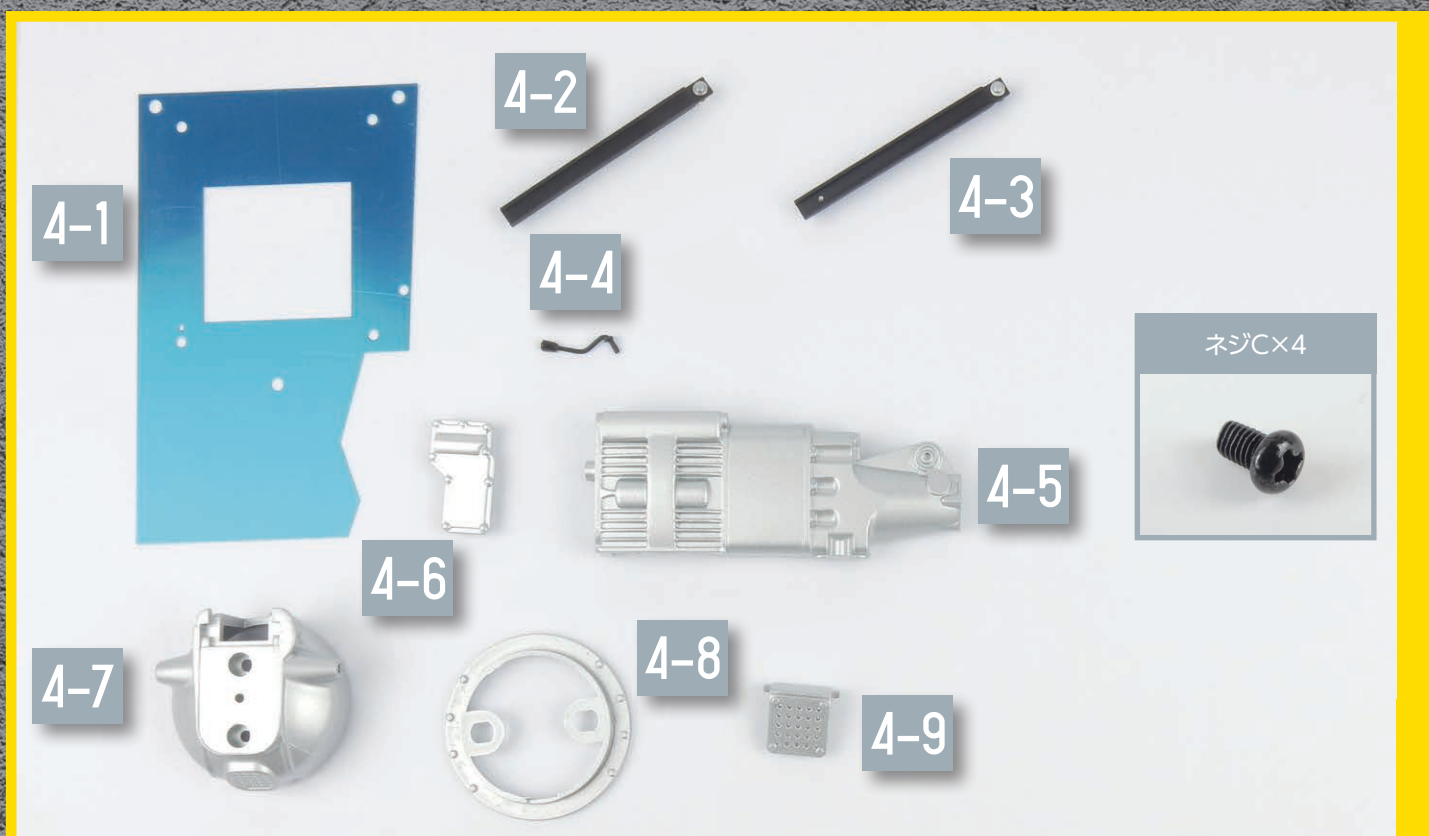
3-5に指紋や汚れなどが付いた場合は、柔らかい布などで拭いて取り除く。

STAGE 3 の完成

これで組み立ては終了。各ブロックとも、傷が付いたりしないよう大切に保管しておこう。

助手席フロアプレート、クラッチボックスとギアボックス

フロアパネルに助手席側のシートレールなどを組み合わせる。また、クラッチボックスを組み立て、ギアボックスと組み合わせる。



パーツリスト

4-1 助手席フロアプレート

4-2 シートレール・A

4-3 シートレール・B

4-4 シートアジャストレバー

4-5 ギアボックス・右

4-6 ギアボックスサイドパネル

4-7 クラッチボックス

4-8 クラッチボックスフランジ

4-9 クラッチボックスアンダーパネル

ネジ類

ネジC (M2.3×4mm) ×4 (1本は予備)

ポイント ●ネジは穴に対して真っ直ぐに当てて締め込む。斜めに締めると、途中で締められなくなる場合がある。●金属製パーツのネジを締める際、途中で硬くなったならネジを緩め、削れて出たカスを取り除くと締めやすくなる。●ネジを締めにくい場合は、あらかじめ各パーツにネジを締めるかタップすることにより、ネジの溝を作っておくとよい。●ネジの先端に市販のミシンオイルなどを少量付けると締めやすくなるので試してみよう。●プラスチック製パーツにネジを締める場合は、締め過ぎるとパーツが割れたり、ネジの溝が崩れて締まらなくなる場合がある。パーツ同士がある程度固定されたら、締めるのをやめる。●パーツが外れやすい場合は、酢酸ビニル系が合成ゴム系の接着剤を使うとよい。瞬間接着剤は、乾燥すると周囲が白くなる(白化する)ことがあるので注意しよう。

STAGE 4

/01



4-2(シートレール・A)と4-3(シートレール・B)は、間違えないように注意。穴がある方が4-3。

/02



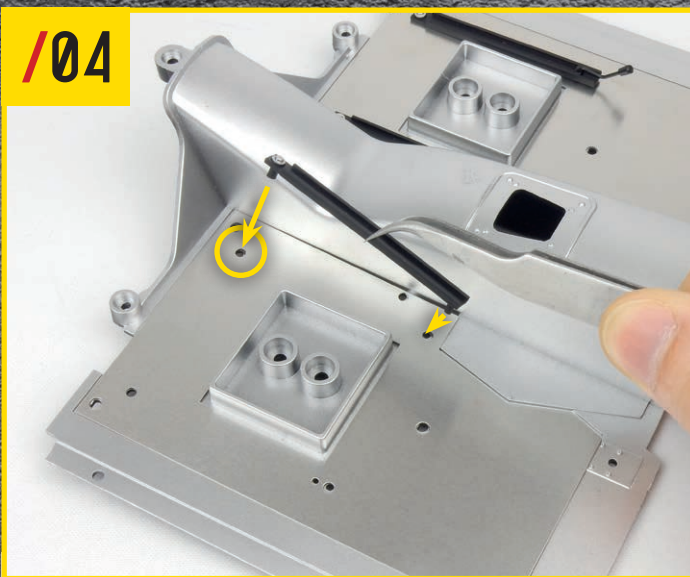
4-3(シートレール・B)の穴に、4-4(シートアジャストレバー)の突起を差し込む。

4-1(助手席フロアプレート)の保護用のフィルムと反対側の面の両面テープの剥離紙をはがしてから、**STAGE 3**で組み立てたフロアパネルに設置する。フロアパネルのへこみに合わせて4-1を貼り付けよう。

/03

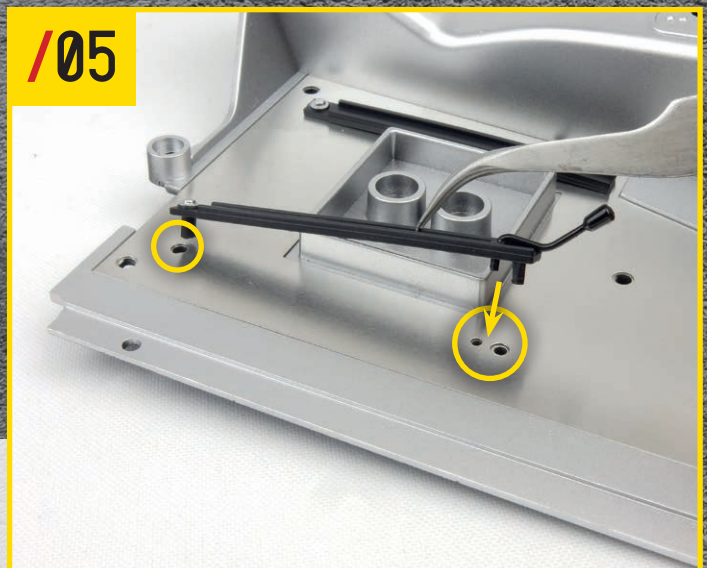


/04



フロアパネルに4-2(シートレール・A)を設置する。4-2の突起を写真の位置の穴に差し込もう。

/05



同様に、4-3(シートレール・B)を設置する。各突起を写真の位置の穴に差し込もう。



/06



4-7(クラッチボックス)に4-8(クラッチボックスフランジ)を、写真のように組み合わせる。黄色い丸で示した4-8の切り欠きの向きに注意しよう。

06のブロックを裏返し、開口部に4-9(クラッチボックスアンダーパネル)を組み合わせる。4-9の片側、黄色い丸で示したツメは、4-8(クラッチボックスフランジ)の切り欠きにかみ合わせる。

/07



ツメを4-8の切り欠きにかみ合わせる。

/08



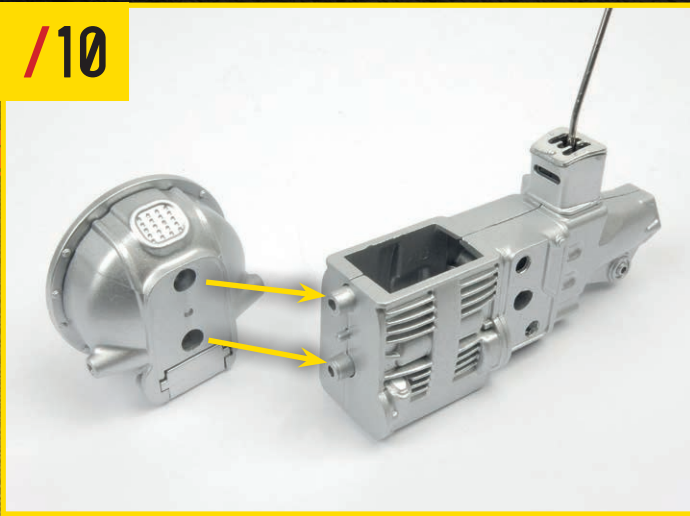
4-9(クラッチボックスアンダーパネル)の反対側は、写真のようにクラッチボックスのへこみに合わせる。

STAGE 01 で組み立てたギアボックス・左に4-5(ギアボックス・右)を写真のように組み合わせ、ネジCを締めて固定する。

/09

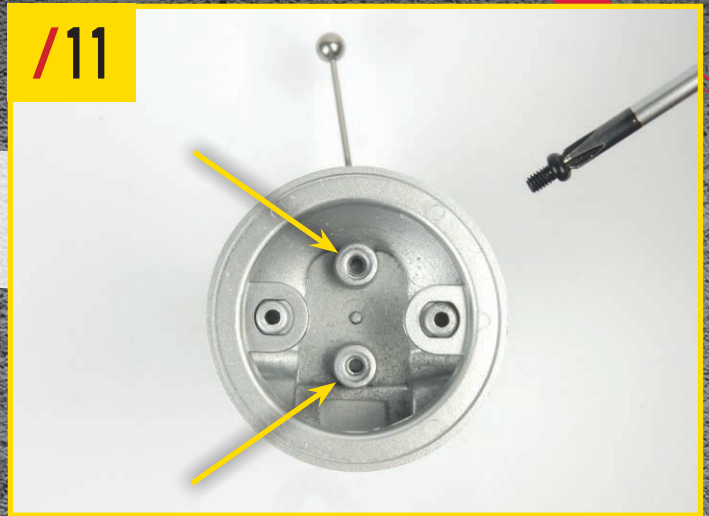


/10



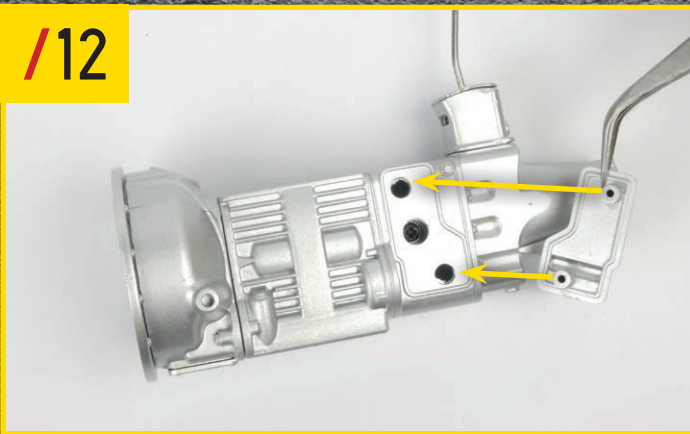
ギアボックスとクラッチボックスを組み合わせる。クラッチボックスの穴にギアボックスの突起を奥まで差し込もう。

/11



クラッチボックスの矢印部分の穴に、ネジCを1本ずつ締めて固定する。

/12



最後に、ギアボックスの左側面に4-6(ギアボックスサイドパネル)を取り付ける。4-6の突起を穴の奥まで差し込もう。



STAGE 4 の完成

これで組み立ては終了。フロント側のフロアパネルに助手席側のシートレールなどが加わり、ギアボックスにクラッチボックスが組み合わされた。両ブロックとも、傷が付いたりしないよう大切に保管しておこう。